

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	古志 めぐみ 【人間発達科学専攻 平成23年度生】 (平成29年5月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	メール相談からみたひきこもる若者の悩みと自己理解の深まり	ひきこもりは、1990年代後半より日本の若者問題の一つとなり、様々な支援策が講じられたが収束せず、ますます長期化し、援助の担い手となる家族の高齢化が深刻化している。本研究では、メール相談を利用する当事者336名の語りのデータをもとに、ひきこもり当事者の心性に迫り、彼らの自己理解の特徴とその変容過程を明らかにした。 主な結果は、次の通りである。
審査委員	(主査) 准教授 青木 紀久代	①これまでアプローチの難しかった臨床群、すなわち支援機関に訪れることなく、ひきこもりが長期化している重症者の語りを多く抽出し、悩みの実態を明らかにした。 ②膨大なテキストデータから、悩みや心理的特性に関する12のカテゴリーを抽出し、数量化した。 ③それをBurkeの自己構築理論の枠組みに照らして分析し、ひきこもり状態にあっても、自己の成長が可能なことを示した。 ④ひきこもりの開始年齢やジェンダー規範が、当事者の悩みや自己理解の特徴に異なる影響を与えることを、対数線形モデルによって明らかにした。 ⑤成長モデルに基づいた支援は、当事者の自己理解を促し、主体性を高めることを事例によって示した。 本研究によって、自己成長モデルに基づく、当事者に寄り添う心理的支援の可能性が実証的に示されたことは、これまで医療的治療か就労かといった二者択一的な支援モデルに終始しがちだったひきこもり支援に、新しい展開を促す意義がある。
	准教授 伊藤 亜矢子	
	教授 篁 倫子	
	教授 浜口 順子	
	准教授 石丸 径一郎	
	(副査)	